



# 摩訶不思議な対話

---

頭脳は神様とつなぐ通信機

---

加藤 祐一

---

## はじめに

---

手がうずうずしています。こんなカタチで本が書けるだなんて、びっくりしました。まずはパブーさんに感謝します。ありがとうございます。

なんと素晴らしいシステムでしょうか。こんな素晴らしいシステム・・・本当に素晴らしいです。書いた文章がみなさんに読まれて、そのレビューによって話の展開が変わっていきまよね。素晴らしい！こういうシステムにまた、すぐに簡単に入れたことが素晴らしい！感激しました。そして、今から書ける！素晴らしいです。

私は本を出したいという欲望がありました。しかし、なかなか書けません。一つはエコに関する本でして、2009年にeco japan cup2009 エコアイデアで「広げるエコ賞」を受賞したのをきっかけに、紙を折ってエコに繋げる折り方を本にしようとして、いまだ、それは挑戦しています。それでこのサイトに巡り合ったのです。

そしたら、いきなり本が書けるとなると、もっと手がうずうずするテーマがあることに気づいたのです。それが「神との対話」が僕の中で始まってしまい、それを書き留めるようなことが起きたのです。それが本当の神かどうかわかりませんが、僕の言う神様です。それでずいぶん書きました。1998年から2000年にはたくさん書きました。最近になってまた少し書いたことがあります。いろんなことを話し合いました。でも今はリアルタイムに書かなくてもすでにいつも対話しながら生きているという感じなんですか。

そこでどんな対話をしてながら暮らしているのか、仕事をしているのかを書いてみたいと思いました。これはすぐにでも書きたい！と思いました。どんどん浮かんでくるんです。そのメッセージが、どんどん。どうしましょう。対話がいま、降りているので、切り替えます。

「みなさん、おほん、いやいや、いいのかい、話しても・・・」

いや、結構ですよ。もう書いています。これは全国に読まれるかもしれませんよ。

「そうか、やっほー・・・ どうだ。聞こえているか」

いや、これは本ですよ。

「違う、これは読んでいる人の魂に呼び掛けているんだ。魂に声を掛けている。頭にはいろんな知識や情報があって、それが魂へのメッセージを邪魔している。だから、大きな声で、呼ぶしかない。やっほー！！生きているか！みなさん、ちゃんと生きているか、楽しいんでいるか。ちゃんと楽しむんじゃ、いいか、ちゃんと感じるんだよ。せつかくの人生だ。これから、いっぱい話すから、ちゃんと読んでくれ」

ちょっと、すいません。あの、そんなに、僕がこれを書けるだなんて、自信がないですよ。ちょっと、びっくりします。というわけで、

「おい、おい、それはないだろう。せつかく、わしを呼んでおいて、このまま、はいでは、ないだろう。」

すいません。まず、では、どうぞ。はい。

「加藤くん、君は疲れているね。」

え～、そうなんです。本当に疲れている。部下にも疲れているのかもしれませんが、身体も参っています。どうしたらよいでしょう。疲れることとは、それだけではありません。教会、マンシ

ョンもそうですが、やはり人間関係に疲れているのでしょうか。仕事をしたいのですが、その疲れで身体やストレスで参ってしまい、体力ややる気が減ってしまい、力が出ません。

「いや、いや、現代人はたいへんじゃ、しかし、君はまだいいほうだ。自分を癒す方法を知っている。今、その癒し仕方に、みんな苦勞している。」

なるほど、みなさん、どんな癒し方苦勞しているんですか。

「癒すとは、心に元気に与えることだが、心はあなたの生体的なエネルギーを満たすことで安心する。やっぱり人の接触、自然との接触、そういう愛に触れることで安心するのだが、それを気晴らしで済ませているところが多い。いやいや、加藤君もこの休みをお風呂に入ったり、食事をしたり、でいろいろ工夫しているね。」

そうですね。でも、ぼくは、この本が書ける、神様とのことについて書けるというチャンスを得たことでとても元気になれるような気がします。ぜひ、みなさんも元気になってほしい。そんな思いでこの本を書きたいと思います。よろしくお願いします。

2010年2月12日（土曜） 加藤 祐一（自宅にて）

## 何も考えなくていい

---

こんにちは、よいのですか。もう始めて・・・

「よい、始めてよう。対話しよう」

いや、私は最初にこの本を書く前にこれまで対話したものを掲載しようと思いました。それで過去のデータを探してみたのですが、見つかりませんでした。仕方なくここに戻って新たに書くしかないかなと思いました。

「お帰りなさい。それでよいのだよ。」

いや、そうですか。それでいきなり呼ぶものだから、いきなりあなたと対話が始まってしまったのですが、よいのですか。

「構わない。まず、座りなさい。気を落ち着けて」

はい、座って、書いています。ただ、ちょっと気持ちとしてうろうろしているような気分です。

はい、じゃあ、落ち着きます。

うん、では、そのですね。ともかく、話したいテーマがたくさん、ありますが、まずは今の若者について感じていることがあります。昨日、テレビで無縁社会をテーマに特集番組がありました。あれは、どうごらんになりましたか。どうしたらよいものか。仕事がない。あっても続けられない。自殺者が増加しています。このような社会と若者の状態についてどのように受け止めてよいのか、また今のそういう無縁になった人たちに対しての助言とかありますか。

「彼らの行動を見ていると、本当に考え方が小さいのだ。もったない。もっと人生とはこんなに素晴らしいのに。それを終わらせようとしている。人生というより、生きるということに自信をすっかり失っているのだ。」

そういうえば男性が多いですね。女性が少ないというのは何か理由があるのですか。

「いいことに気づいたね。女性はとても強いのだ。もともと出産をする体型と能力があるし、それだけ身体の機能が複雑になっている。子孫を増やすという天命を受けて生まれてきているから根本的に生きる力がある。別に人間界だけでなく、自然界もその傾向が強い。だが、そういう問題ではない。ちょっと話が違う。問題は自信を失っていることだ。味わっていない。自分が味わいたいものを味わっていないのだ。それは体験であり、経験である。私も一緒になって味わいたい。それがわたしだからだ。彼らを見ていると、そこに冷えたものしか感じない。冷たい。もっと通わせたい。いのちを通わせたい。ただ、私は貧困や仕事がないという体験も大事だ。それも経験だ。冷たいという体験も大事だ。それは否定しない。冷たいというのは暖かい体験がどこかにあるから冷たいことがわかっている。きっと彼らはそこで暖かい夢を覚えて、忘れられないものとしてしまったのだろう。」

何が彼らを苦しめているのですか。

いや、そんな他人行儀なことは言えない。私だって、わからない。

「そこだ。それだよ。比べることだ。差を感じることだ。どうして、差を求めるのだ。どうして上や、下を見るのだ。どうしてそういう見方になるのか。それは常に不満があるからだ。常に満足でいたいという願望があるからだよ。願望が満たされて、それが幸せがだという感覚が頭にあるんだ。悲しい。悲しいなあ。幸せの意味がわかっていない。いや、幸せということが差を感じ

ることが一番早く感じられると思っ込んでいる。」

私もときどき寂しいと感じるとき、それは仲間外れみたいな感じを受けたときです。みんなそれは、あるかと思っます。差をつけることで優越感や幸せを感じるものだと世間では理解されていると思っますが、

「では、ここで例え話をしよう。ぶどう農園をしている経営者が収穫のときを迎えたので収穫をしてくれる人を募集したのだ。町に出て、人を集めた。農園につれていき、収穫をはじめた。しかし、まだ人が足りないことがわかったので、また町に出て、人を集めた。また、農園につれていき、収穫をはじめた。すごい人数で収穫ができたので、その日のうちに収穫ができた。明日から天気が崩れるので、今日中にどうして、収穫しておく必要があったからだ。経営者は助かったのだ。そこで賃金を払うことになった。全員が一列にならんだ。そして同じ金額を支払った。すると、朝から働いている人が経営者に怒鳴ってきた。「俺たちは朝から懸命に働いていたのに、どうしてこれしかもらえないんだ。もっとよこしてくれ」といって、暴動になった。そして彼らはその経営者を殺してしまった。

さて、この中で幸せな人とは誰れなのか。」

いや、参りましたね。そりゃ、夕方に来た人たちではないですか、少し働いて、お金がたくさんもらえたから。

「ずいぶん、比較したね。答えは経営者なんだよ。確かに殺されてしまっっては幸せであっても仕方ないように思えるけど、経営者は自殺したのではない。彼らに殺された理由があるが、それが問題ではここでは問題ではない。肝心なのは使命を果たしたこと、それを貫いたこと、そして果たしたこと、ぶどうを愛していたこと、また働く人たちを愛していたことなんだ。どうして同じ金額を支払ったのか、それは契約として、約束として彼らを雇ったからであり、それを守った。それは経営者と働く人との関係、一対一との関係で成り立っている。そこを守って、契約して、働いた。時間の量ではない。働いた量ではない。その日のうちに全部を収穫することが仕事であり、それができたことへの報酬である。差別や差額という考えはないのだ。

殺してしまっった人はそのあと死刑になった。なんとも悲しい場面とを感じるだろうが、それが神の世界なんだ。彼らは学びに来ている。この世に学びに来ているのだ。経営者はそこで理解しないで暴動を起こした人を赦したのだろう。たぶん、その経営者はとても金持ちかもしれない。いや金持ちになったかもしれない。しかし、信じるものを貫いて、愛する兄弟を残していく父の姿に対して、父は若者を大衆として赦したのだ。その一人を攻めていたからではなく、大衆として、赦した。彼らの罪を全部を背負って、そこで息を引き取ってしまっった自分の中にはそこに永遠なる救いがやってくる。」

そうか、学ぶためなんですね。でも私たちがその学ぶために生きているのではなくて、生きるために必死に働かなくてははいけないのです。必死に働くということは、その暴動を起こした人たちにも家族があっって、その家族のために必死になっていると思っます。だから、そこで学ぶために暴動を起こすのはやめようだなんて、言わないですよ。

すいません、そろそろ時間です。会合があるんです。  
途中で中断しますが、ここで一度打ち切ります。ただ、ここでのタイトルが「何も考えなくてもいい」なんか、分かるような気がします。引き続きこのタイトルでお願いします。

★ ★ ★

マンションの会合がありまして、それに出ておりました。  
そして夜食を今、済まして、ワインをちょっと口にしました。  
とても充実した時間でした。

さて、何も考えなくていいということで、対話をしています、わかるような気がします。  
世間では計画的に行動や実施しないと、合意形成が取れません。それを何も考えなくていいというのは少し乱暴すぎるようなアドバイスのようなのですが、いかがですか。（家内がテレビをつけ始めました。これでも書けるのでしょうか）

「もちろん、そうさ、奥さんにテレビをつけるように言ったのだ。何も考える必要はないということ。今のこの文章もあなたは何も考えてはいない。」

え、そうです。ただ降りてくるメッセージをそのまま書いていますから、何も考えていません。  
とても楽です。

「あなたは何も考えていない。そのとおり。それで文章が出てくる。そうだね。」  
そうです。

ワインをちょっと口にしました。

「どうぞ、どうぞ、私は大歓迎だよ。やっほー」

まあ、そんな大袈裟な、困ります。私はあなたをなんて紹介したらよいのでしょうか。まったくわからなくなりました。ちなみに神様だと思っていますが、よろしいですか。

「そう思っただけなら、それでもよい。私はあなただ。あなたそのものであり、神様といえ、そうなる。神は人間とともにある。神は神自身を感じるのに、あなたと共にある。よいか、こちらとあちらの違いのように、あなたと神との違いは似ているのだ。こちらとあちらの違いはあなたにとって、観察者にとって、主体者にとって、近いのか、遠いのかの違いだ。それはあなたが私より先にあった、後にあったのかの違いに過ぎない。」

それには異論が出ますよ。神は絶対的な存在を示します。怖くて、変な説明はできません。ちなみに私はクリスチャンです。そのような簡便な説明で、わたしと神様の関係を示していけないのではないのでしょうか。私はそれを弁護できる自信はありませんよ。

「あなたと私の違いは何であるのか、同じあなたの中から出ているものには違いはない。」  
でも、私の意識の中にあなたはいません。私の想像（創造）を越えています。いや、ひょっとして、私の潜在意識がこのような知識を導いているのかもしれない。

「困ったね。」

神様にも困るようなことがあるんですか。私には理解できない。

「おい、おい、わたしを試しているのかい。では、私はいったい何をあなたに望んでいるのか、どうして、わたしこのような場面に出ることを歓迎しているのか、わかるのか。もちろん、それが私の望むところだ。私はあなたと共にある。それを忘れないでほしい。あなたとともに歩む。それが私の望むところだ。私はいつもあなたのそばにいる。それが私だ。私はいつもあなたがたの

そばにいる。あらゆるところに私はいる。もちろん、奥さんも私である。」

テレビが消えました。静かになりました。

ちょっと、むきになっていました。

はい、私、少しわかってきました。あなたは私たちのそばにいつもいらっしゃる。だから共に歩んでいる。その違いはこちらとあちらの違い、わたしと家内との違い、そこにある神様とここにいる私の違いなんですね。

「そのとおりだ。私が困るといのはあなたの困った様子を受けたからであって、それは自然なことだ」

また、テレビがつきました。

なんかテレビの音が耳障りになってきましたが、

何も考えなくてもいいということは、つまり神様がいつもそばいらっしゃるということだからでしょうか。

「そのとおり、いつもあなたは神様のそばにいる。あなたはそれを感じることができる。それを感じることがとても大切だ。それが脳の役目だ。脳は通信機だ。私との通信機なのだ。あなたはその受信ができるようになれば、テレビの音とは違う電波だ。まったく問題ない。テレビの音は耳障りでないはずだ。」

え、そうです。その何も考えなくていいというのはそうなる知識層の問題ではありませんね。そのゾーンというのは心の奥底で勘定する部分においてでしょうか。その勘定について何も考えなくてもいいということでしょうか。

「そうだ。あなたが、そこでこの文章を書くをやめて、あなたはワインを飲んだ。そこでワインを飲むという選択において何も考えていない。ただ空気を感じて、パッと振り向いてワインを飲んだのだ。そこにはあなたの知識は関係ない。しかし、ワインを飲むことによって、奥さんはとても満足する。一緒に飲んだということだ。一緒に飲むということはとても楽しい。それによって、あなたはこの時間を守られている。あなたを邪魔しなくなる。」

そういうことですね。すっかり耳障りではありません。

ありがとございます。

お尋ねしてもよいですか？あなたは・・・？

---

お尋ねしてもよいですか？という問いをさせていただきます。私は「かみさま」ではないかと思っていますが、ここで改めてお尋ねしてもよいですか？たぶん読んでいらっしゃる方はこの質問をぜひしてもらいたいと思っています。とても大事な質問だと思います。いろいろ考えていたことがありますが、整理ができません。ここで正すことが必要なのかわかりません。

「そう、とても大事なことだ。私はいったい何者かということだ。それはたぶん答えは出ないだろう。あなたの意志でこれは書かれていない。あなたの手にこのメッセージを伝えている。あなたはとても純粋だ。だからそれができる。疑わないからできるのだ。疑わないこそ、信じることだ。それを選択しているあなたがいる。そこには意志が働いて、そこに意図が存在している。それはあなただ。あなたはいま、これを書いているときを許している。ONしていることを選んでいる。それがあなたの意志であり、この文面についてはそれをコントロールできない。この文面はどこから来るのか、それはあなたの脳からだ。脳から聞こえてくる。脳は通信機、受信機である。それを書き留めている。そこにはあなたはこのキーボードの打ち込みだけOKという選択だけをしている。私がこれで世界征服をしようだなんて、考えていない。」

おっと、スイッチを切らせてもらいます。怖いです。確かにそうです。選択しています。スイッチを切ることはできます。確かに意志はそこにはあります。でも、それは恐ろしい考えです。私はそんなことは望んでいません。

「どうして、あなたはこの本を書こうということを選んだのか、どうして、私を呼んだのか。」  
すいません。怒らないでください。

私は体裁を気にしているのかもしれませんが。大衆を恐れているのかもしれませんが。家内を恐れているのかもしれませんが。誰かから責められるのを恐れているのかもしれませんが。でも、そういう精神状態で、この本を書こうと思ったのではありません。私はあなたのメッセージをぜひ、世界の人々に、日本からもこういったメッセージが出せたらと思っています。ごめんなさい。それはおこがましいことです。そういう思い、、、ごめんなさい。

・・・

はい、反省します。

このような冒瀆するようなことはありません。

「これは遊びではない。ともに与えられたチャンスだ。それを生かそうではないか。私はここで、メッセージを発信するチャンスをいただいた。このサイトを通して、本として出版できるチャンスだ。なんと素晴らしいことだ。よいか、どんどん日本から世界に発信してよいのだよ。何も遠慮することはない。私を冒瀆する？神を冒瀆する？とんでもない。あなたの発言はみなさんの声の一つとして、当然の発言だ。その恐れや体裁ということも大事なことだ。あなたたちにとっては。体裁とは比較の中で生まれる絶妙なバランスだ。私はそんなことを望んではいない。一人一人違うようにした。個性があって、価値観も違う。でなければ自分が自分であるということとはわからない。同じ花がたくさんあれば、その花は自分であるとはわからない。これが白であると



いうのはいろんな色があるから、それは白だとわかる。違いあるからそこに風が起きる。循環する。自然に育つのだ。私たちは育ち、成長することが喜びであり、それが学びであり、それが生きることだ。どんな違いがあっても、そこに喜びがある。その違いをどんどん発信して、自分を見つけよう」

ありがとうございます。

あなたが誰であるのかはあまり問題ではないようです。読んだ方が判断すればよいことです。私  
がたとえ、神様だと思っけていても、読者は違うと思うでしょう。（逆もある）

## この本を公開しながら、執筆へ

---

途中ですが、公開しながら執筆することにしました。

「やっほー、いいね。もっと油が乗る。こういう体験をしながら、語るのはなんとも気持ちがいい。あなたの魂も喜んでいるぞ。」

いや、いや、参りました。内心複雑です。でも、もちろん、その中にやったーという喜びもあります。

私はいま、ちょっと優越感を感じています。

「一つ面白い話をしよう。これは君の経験で、考え、感じていたことを私が代弁しよう。それはその優越感がどんな行動を起こすかについてだ。とっても危険な道に入りやすいということだ。優越感はやっとした有頂天にも似ている。スキーで言うと、コブの頂点に板が乗った状態だ。トップとテールは雪面から離れているからクルクル回る。優越感に浸っていると、それにブレーキをかけるところがないので、油断ばかりになっている。だから誘惑に弱くなる。ちょっときれいな女の子から声がかかれば、彼女に夢中になってしまう。お金がちょっとあれば、それを使ってしまうのだろう。気づくと、お金がなくてなっていて、帰れなくなったり、また財布を落としたりするものだ。クルクル回るからどこへでも降りれる。それはどこにでも行けるということだ。優越感に感じてしまえば、なんでも出来てしまいそうだ。なんでも書けそうに思えてしまう。ちょっとの優越感で、とんでもない罠に入ってしまう可能性もある。だから、優越感はやっほーだ。ちょっといい気分になったからといって、油断してはいけない。コブに乗ったら、ストックでチェックいれて、その姿勢を前傾にして、腰を落として、エッジを立てて、方向を定めて、スピードを落とさずに次のターンに入るように、優越感に浸りそうになったら、すぐに目覚めて、いったい周囲で何が起きているのか、今の時間は、今の様子は、確認しながら、この文章はどんなメッセージなのか、ちょっと目を覚ましておこう。」

そうですね。私はスキーをしていました。よくわかります。やっぱり私の知識を使っていますね。あなたは私の一部です。でも、普段の頭脳ではないことは確かです。とても気分を楽にして、書けるからです。

「わかった。もうよい。」

はい、そうです。おっしゃるとおりです。優越感を感じる時は注意するということですね。そうだと思います。調子が出るときはいいことですが、ちょっと良すぎると、調子に乗るなどいいます。ここに加減という大切さを感じます。まずは、公開された中で今後は執筆することになります。みなさんから読まれるようになればと思っています。

「ところでなぜ、この本を無料にしたのかね」

読んでもらいたいと思いました。まずは手にとってもらえることは喜びです。

「OK」

ありがとうございます。

お金が入ってしまうと、きっとブレてしまう。収入がないので、収入は気にしなくていい。だから、執筆に集中できますから、いい本を書きたいというより、あなたをもっと社会に役立てたいと思ったのです。

「お、お~ それはハッピーな考えだ。素晴らしい！賛成だ！」

ありがとうございます。よいパートナーになれそうですね。

「もちろん、よいパートナーだ。」

「そうだ。優越感があっても失敗しても実はいいんだという話もしておこう。誘惑に負けてしまってえらいことになってしまうという危険な道があることについて、これが問題なのか、悪いことなのかだが、実はなんの問題もないという話だ。誘惑に負けたことはいけないことだろうか。もし、そんなことに気を取られて、暮らしていたら、こんな味気ない人生はない。素晴らしい恋をするかもしれないのに、男の一大事というときに、お金なんて気にしないでどんどん素敵な恋をしようじゃないか。それが人生の醍醐味だ。どうして、それを避けようとするのだ。その魅力的な彼女にほれ込んでしまうのはとっても大事なことだ。それは私も体験したい。味わうことだ。そのスリルを体験したい。その恋を体験したい。それで私というのがわかるのだ。私という人間がどんな人間なのかがわかる。失敗した、失恋した。どんどんOKだ。それで自分を知る。それで人間を知る。それで恋というものを知る。そして、時の流れを知る。時は失恋を癒してくれると知る。そして友を知る。友が自分を癒してくれる。助けてくれる。感謝を覚える。人の優しさを知る。そうだ。人生だ。これが喜びだ。元気を感じる。生きるって素晴らしいということだ。味わうからわかる。味わいこそが実は学びなんだということだ。どんどん体験して、感動しよう。子どもの頃が時間が流れが遅いのは感動する時間が多いからだ。感動の起伏が実は時間を長く感じさせるのだ。その道のりが長くなるからだ。感情の変化こそ、ジェットコースターだ。それに乗った気分だ。ジェットコースターに乗っているときは考えなんて、ぶっとぶ。そのときは必死だ。短い時間なのにやけに長く感じる。人生も同じだ。起伏のある素晴らしいジェットコースターに乗ったような人生を送ろう。つまり、それは平穏な感情でないことだ。楽しくて、つらくて、悲しくて、悔しくて、そして癒されて、癒して、元気になって、勇気付けられて、真実を知って、信じることを覚えて、人を信じて、そして裏切られ、そして学んで、悪に入り、お金の走り、欲に走り、そして、突然の大切な人の死を迎え、目覚める。つらい、死にたいと思う。沈黙の時間があって、孤独の時が流れる。お金はなくなり、友達を失い、貧困の暮らしになっていく。そして怪我、病気に見舞われ、犯罪を犯す。逃げる。人が信用できない。ホームレスになる。誰も信用できない。ところがそれを癒してくれるときが来た。一冊の本だった。聖書だった。彼はその本を拾った。それは意味が分からない本。ただその本を持っていた。ただ持って

いるだけで安心した。そして眠った。寒かった。気づくと、ベットにいた。知らない人が病院に運んでくれた。彼は牧師だった。彼の手にあった聖書を見つけたのがきっかけだった。彼は暖かいスープを飲んだ。身体は傷だらけだけだった。そのうち、教会に住むようになった。そして、聖書を読むようになった。もっとも小さきものにしたことはすなわち、私にしたことと同じであるという聖句に出会った。そして、働くようになった。それまでの経験がすべて生きた。彼は貧困層の人たちを救う団体を立ち上げた。その代表になった。彼らを救うために社会に役立つ活動をはじめた。

だからこれがいけないということはない。悪いからしていけないということではない。あなたの人生であり、そのために用意されたジグソーパズルのような迷路のような人生だろうが、それは素晴らしい人生なのだ。それが他人が見て、素晴らしいかどうかではない。違う。

中には平凡の人生もある。中には日のあたらぬ人生もあろう。それはだめだということではない。だめというものは何もない。この世にこれがだめだというものはいっさいない。無駄なものはいっさいない。どうしてか、それはあなたが選んだからである。そして神と共にいるからである。自分には神がないと思うかでない。私があなたを選んだのだ。神なんて信じない人がいる。それがどうかでない。そばに石があるように、そばに空気があるように、神がいつもそばにいる。いつもささやいている。いつも声をかけている。私はいつもそばにいる。それは物質だけではない。映画も本も、ストーリーも、ソフトもだ。それは私だ。私はいつもあなたのそばにいる。信じなくてもいい。そばにいる。あなたは何をもって、平凡というのか、それが問題でない。問題は学びだ。その人の人生の学び。その人の生まれてきた意図だ。その意図がすべてだ。その意図のとおり有益に生きてきたかどうかだ。有意義な人生だったか、それはあなたの意図を知ることでわかる。だから、人を見て、この人は素晴らしいかどうかはわからない。この人は幸せかどうかはわからない。そして、その人も自分の意図を知らずに天に昇る人もいる。だから自分の人生の意図に気づいた人は幸せかもしれない。が、そうでない場合もある。

考えながら生きた方がよいか、優越感を注意しながら、生きた方がいいか、考えないで生きた方がいいか、それはあなたが選ぶことが出来る。どちらがよいかはわからない。考えながら生きることは何かという意図で生きる人には哲学という意図があるからだ。その人は多くの人に人生の意味を知らせる印を示すことが出来るだろう。

だから、決め付けなくて良い。方向を決め付けなくて、あなたの純粋な感性を生かしてほしい。あなたの五感を役立ててほしい。五感を生かして、感動することが素晴らしい人生を送れるだろう。楽しい、おかしい、ユーモアのある人生こそ、多くの体験ができる。この本もいい体験だ。」

ありがとうございます。楽しんで、対話を続けたいと思います。今日は大雪です。

2011年2月15日AM1:00 おやすみなさい。

## 深く考えすぎない

---

あるテレビ番組で見たのだが、老婆に「長生きの秘訣は？」と尋ねたら「そりゃ、深く考えすぎないことだよ」と答えていました。老婆はこう話すんです。

「深く考えて、ろくなことはない。深く、あれこれ、考えても何もならない。ただ心配するだけで、身体にいいことはないよ。何しろ深く考えないことだよ。神様も言うように、明日のことは煩うなだよ。そのとおりさ、深く考えないと、先に物事が進む。深く考えないからさ。深く考えると手が止まってしまうからだ。だから、深く考えないで、今もしゃべっているよ。とても楽しだし、楽しいよ。お前さんも真似してみないか。」

そうやって、また部屋に戻ってしまった。

でも、やはり深く考えしまうことはあるんですが、そこでやめて行動に移してしまうと意外と解決してしまうことを経験しています。どうしてなんですか。

「やあ、しばらく、今日はよかったね。病院に行ったね。」

はい、昨日、夜中に眠れなくて、病院に行こうとそのときに思いました。行ってよかったです。

よい薬をまた巡り合いました、いまはすっかり落ち着いています。

・・・そう、たしかに深く考えずに、今日は行かないと思いました。

「そう、深く考えてなぜ、よいのか、これを深く考えて、どうする。どうして、これがよいのかも始まらない。」

それもそうですね。

深く考えない。追求しない。詮索しない。それをしないということは、余計な情報を身につけないことですよね。深く考えてしまうと、それが顔や行動に移ってしまう。それにこだわることでさらに問題を深刻化させるのではないかと思います。

「・・・・・・・・」

さあ、今日はとてもよい日でした。ありがとうございます。

「私は今日、きみには何もアドバイスしていない。」

はい、そうでしたか、夢中でした。仕事に夢中だったと思います。

「そう、夢中なときは、考えるというより、状況をさばく、空気を読むという感覚ではなかったか。」

はい、そうでした。目をぱっちりとあけて、状況を確かめながら、読みながら行動していました。

。

「何も考えないことの素晴らしさ！これこそ人生の最高峰だ。何も考えなくても、うまくいく。そこには計算がない。計算しない素晴らしさ。それは恍惚の喜びがある。それが快樂になっていく。そこには考えることこそ不要だ。感じたままに生きることだ。感じたままこそ、五感を味わうことであり、五感こそ、健康そのものをあらわす。健康であれば五感が敏感に働く。それこそ何があっても、すぐに敏感に察知できる。察知が出来れば危険も回避ができる。それは命を守ることになる。危険な食べ物や危険な行為を避けることになる。身を守ることこそ、大事。それに

は五感が大事だ。身体を健康にしてこそ、安全も宿る。すべてがうまく。それが何も考えない素晴らしさだ。そして深く考えないこともそうだ。考えてしまうことがある。いったいなんだと思って、それを考えてしまうことがある。あれはなんだったんだと。そういうときに過去の情報と照らし合わせて、経験と照らし合わせて、それを理解しようとする。そこで始めて、考える。考えとは過ぎ去ったことを整理するときを使う行為。それをどのように解釈するかを整理するには考えることが必要だ。だから考えるとは整理することであり、それは過去のことを整理するためにある。よって未来や今から起きることについては考えるのではなく、五感を使って、空気をつかみ、感じたままに生きることだ。それこそチャンスを活かして、それを引き寄せて、離さないことだ。」

わかりました。

何も考えない意味がわかりました。

ありがとうございます。

では、今日はおやすみなさい。

このまま公開します。